

富士山の火山活動解説資料（平成 25 年 8 月）

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

2011年3月15日に静岡県東部（富士山の南部付近）で発生したマグニチュード6.4の地震以降、地震活動が活発な状況となっていました。その後、地震活動は低下してきています。その他の観測データでも浅部の異常を示すものはありません。火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

平成19年12月1日に噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1～4）

8月28日に実施した現地調査では、山頂火口内で日射による影響を超えるような高温域¹⁾は認められませんでした。

萩原（富士山山頂の東南東約18km）に設置してある遠望カメラによる観測では、山頂部に噴気は認められませんでした。

1) 赤外熱映像装置を用いて観測しています。物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器で、熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

・地震や微動の発生状況（図5、図6）

2011年3月15日に静岡県東部（富士山の南部付近）で発生したマグニチュード6.4の地震以降、その震源から山頂直下付近にかけて地震が増加しました。その後、地震活動は低下してきています。14日05時50分に静岡県東部（富士山の南部付近）を震源とするマグニチュード²⁾2.9の地震が発生し、静岡県富士宮市と富士市で最大震度2を観測しました。

深さ15km付近を震源とする深部低周波地震は、少ない状況でした。

火山性微動や浅部の低周波地震は観測されませんでした。

2) マグニチュードの値は暫定値で、後日変更することがあります。

・地殻変動の状況（図7－①②③）

GPS連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。



図1 富士山 山頂部の状況
（8月7日 萩原遠望カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成25年9月分）は平成25年10月9日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、独立行政法人防災科学技術研究所及び神奈川県温泉地学研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平23情使、第467号）。

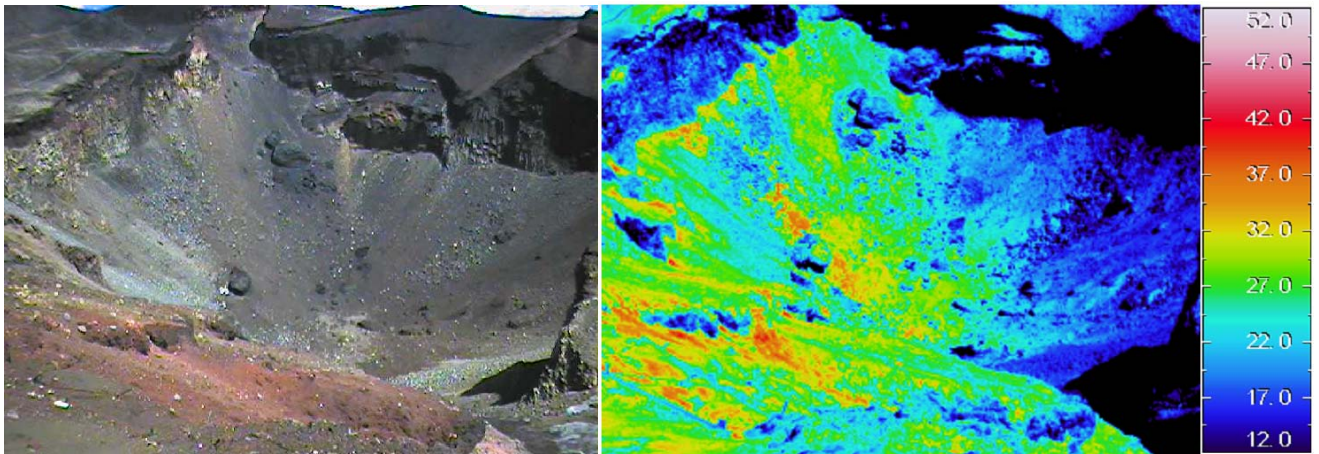


図 2 撮影位置 A からの赤外熱映像撮影（撮影日時分：2013 年 8 月 28 日 11:34）

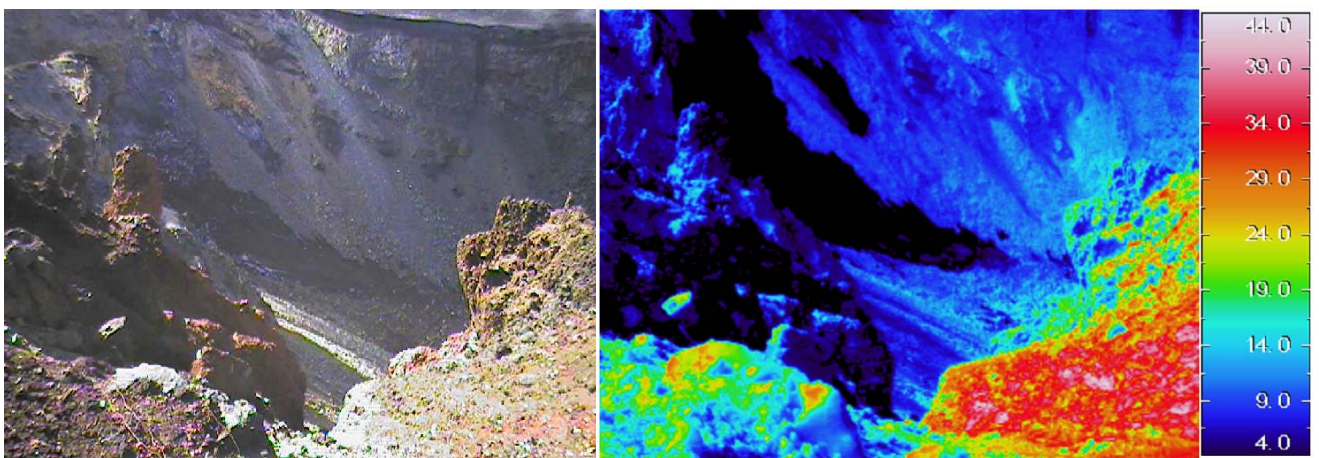


図 3 撮影位置 B からの赤外熱映像撮影（撮影日時分：2013 年 8 月 28 日 15:12）

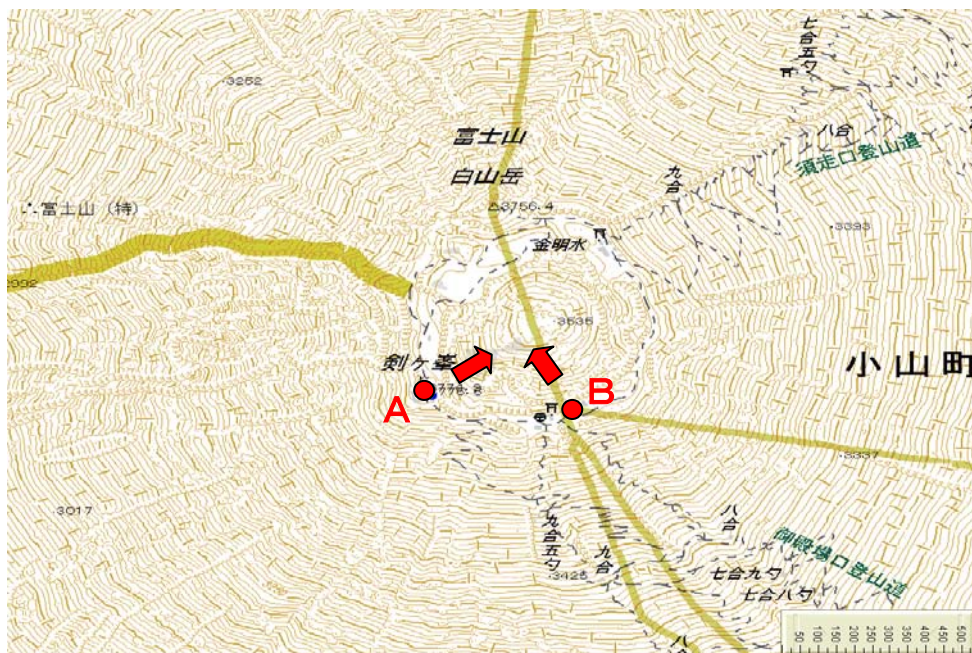


図 4 撮影位置と撮影方向

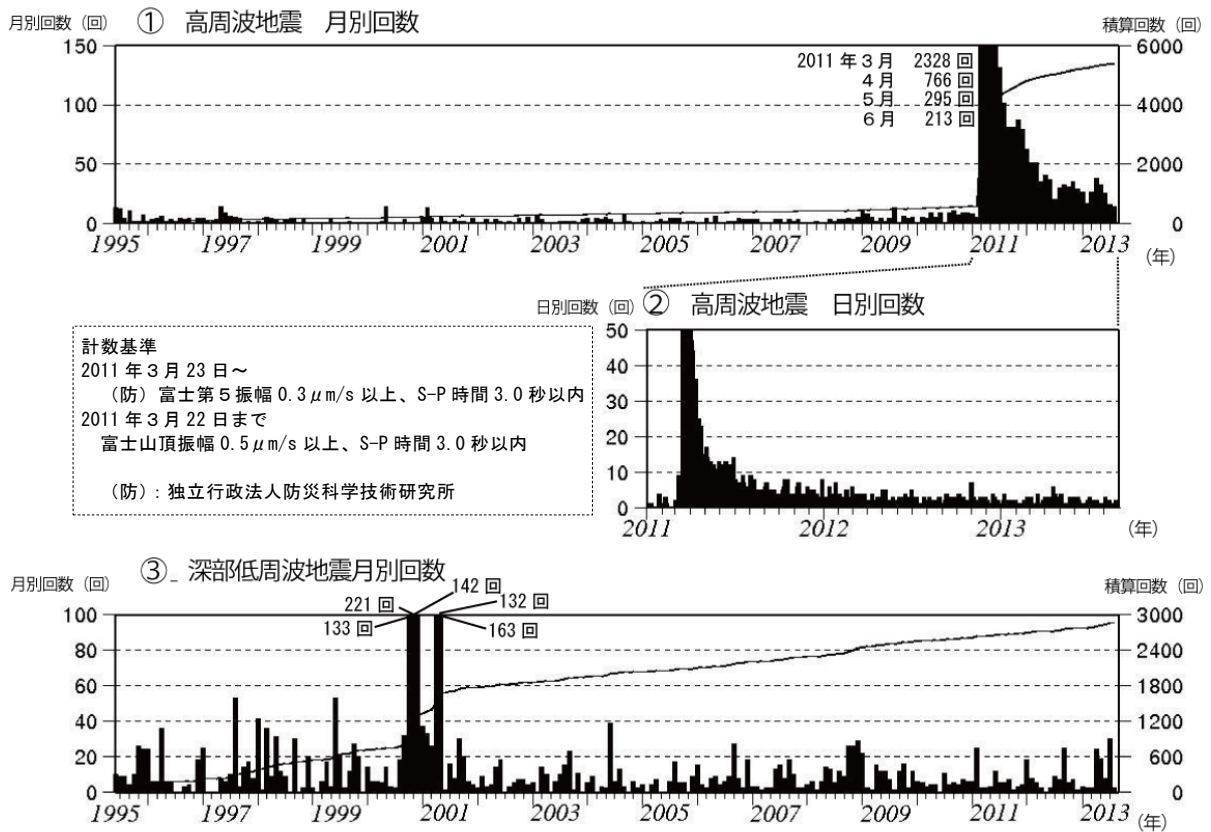


図5 富士山 月別及び日別地震回数（1995年6月～2013年8月）

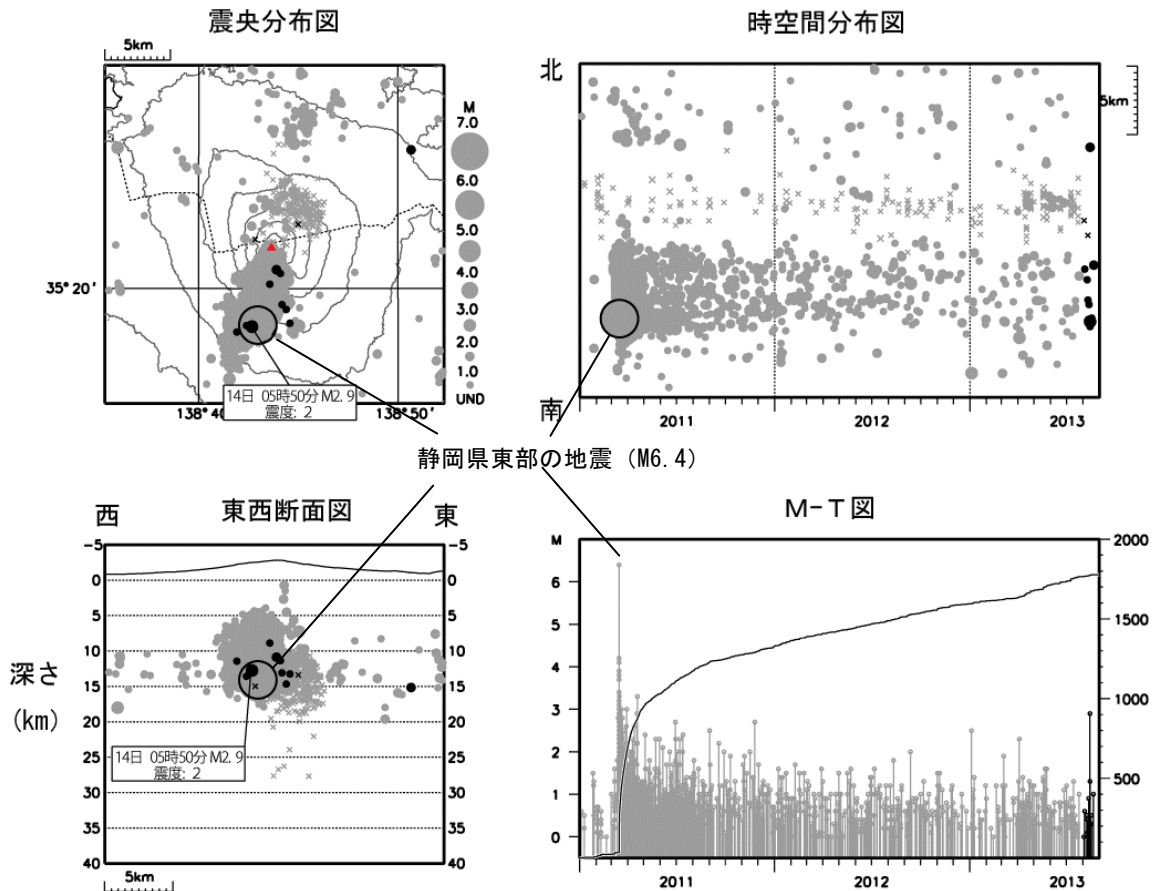


図6 富士山 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2011年1月1日～2013年8月31日）

●：2011年1月1日～2013年7月31日 ●：2013年8月1日～8月31日
 ×は深部低周波地震を表します。M（マグニチュード）は地震の規模を表します。
 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

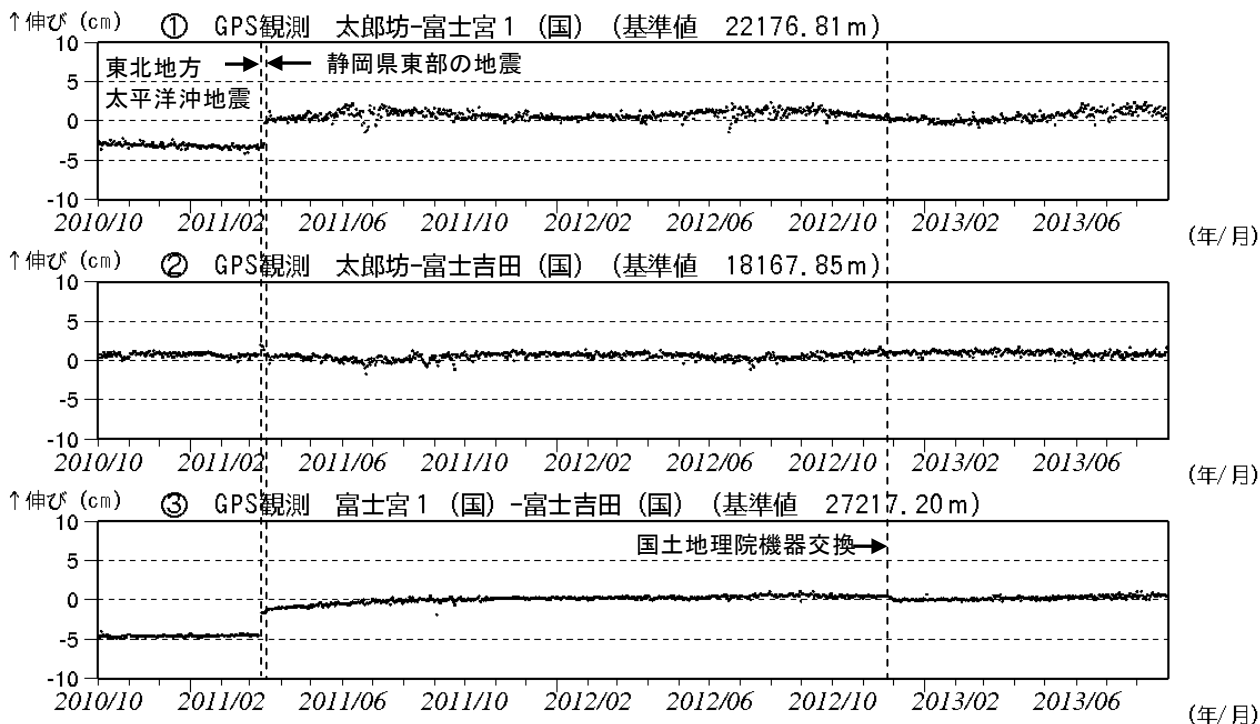


図 7 富士山 GPS 連続観測による基線長変化 (2010 年 10 月 1 日～2013 年 8 月 31 日)

(国) : 国土地理院

2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震、及び 2011 年 3 月 15 日に発生した静岡県東部の地震の影響により、データに飛びがみられます。

①～③は図 8 の GPS 基線①～③に対応しています。グラフの空白部分は欠測を示します。

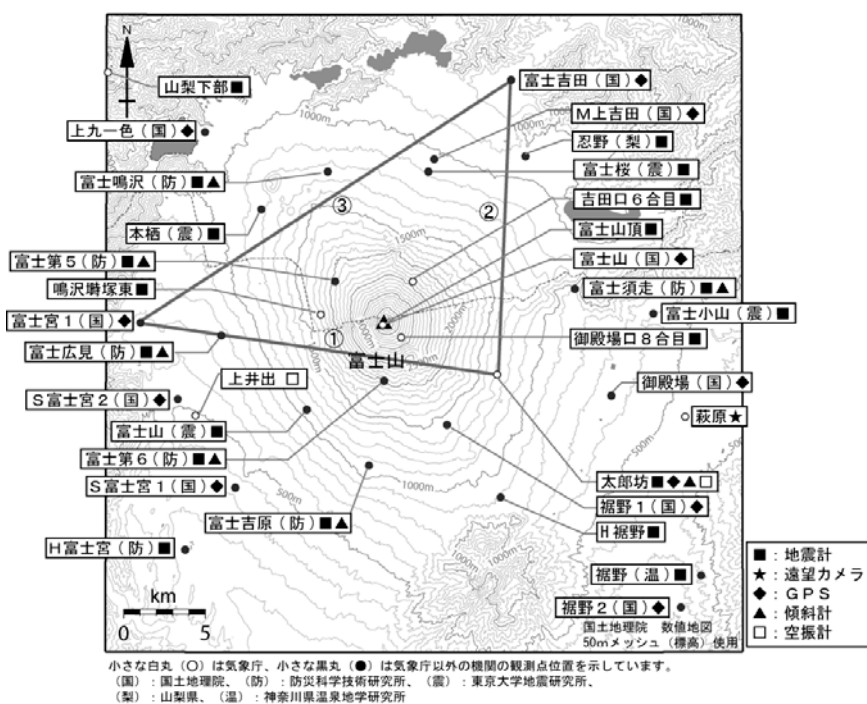


図 8 富士山 観測点配置図

GPS 基線①～③は図 7 の①～③に対応しています。